



今日のトピック 原油高が米国のインフレに与える影響

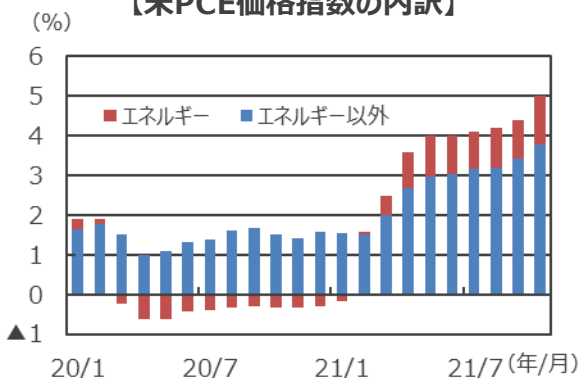
中長期のインフレに及ぼす影響は大きくない

ポイント1

原油価格の上昇が
インフレを押し上げ

- 米国を中心にインフレが加速しています。米連邦準備制度理事会（FRB）が物価目標の指標にしている個人消費支出（PCE）価格指数は10月に前年比+5.0%と、およそ30年ぶりの伸びとなりました。
- インフレが加速している要因はさまざまですが、原油価格の上昇も大きな理由です。米国のPCE価格指数のうちエネルギーの割合は約4%ですが、原油高を受けてエネルギー価格は前年比+30%となっているため、これだけでPCE価格指数を約1.2%ポイント押し上げています。

【米PCE価格指数の内訳】



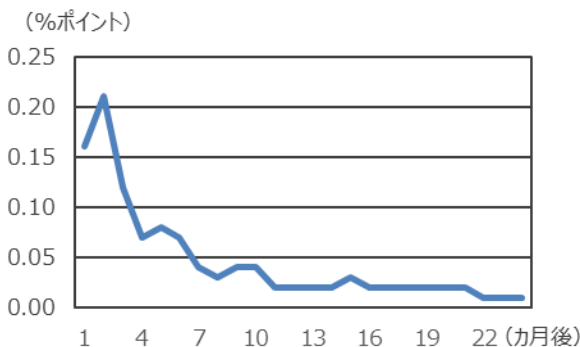
(注) データは2020年1月～2021年10月。
(出所) 米商務省のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2

中長期のインフレに及ぼす
影響は大きくない

- ただ、原油高が中長期のインフレに及ぼす影響は大きくないと言えます。弊社では、原油価格の10%の上昇が1年後の物価に及ぼす影響は+0.1%ポイント程度、エネルギーと食品を除いたコア物価に及ぼす影響は+0.1%ポイントに満たないと試算しています。
- 右図の通り、FRBの試算でも概ね同様の結果が出ています。

【原油価格上昇が米コア物価に及ぼす影響】



(注) 原油価格の10%の上昇がコアPCE価格指数に及ぼす影響。FRBによる試算。
(出所) FRBのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

オミクロン型の動きに注目へ

- ただし、今回のインフレは原油価格の上昇以外にも、経済再開による需要超過、人手や半導体の不足、物流の停滞など、さまざまな要因が重なって発生しています。そのため、原油価格が落ち着いてもインフレが予想以上に長引く可能性は残ります。
- 特に、直近では新型コロナウイルスのオミクロン型によって各国で渡航制限が強化されています。この動きが港湾業務などにも広まると、物流をさらに阻害し物価を一段と押し上げる要因となるため、今後の動向に注目する必要があります。

ここも
チェック!

2021年11月30日 「オミクロン」と米国株式市場 中期的な株価上昇期待は維持
2021年11月18日 新型コロナ対策が変わる？ファイザーの「経口治療薬」

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。